

《 83期 年間重点事項 》

1. 2024年度 全社安全衛生目標

- ※目標値
- ・度数率 0.40 以下
 - ・強度率 0.02 以下

2. 重点方針

- (1) 墜転落災害・飛来落下災害と重機（クレーン・車輛系）災害の根絶
- (2) 高温下での作業に伴う災害防止
- (3) リスクアセスメントの確実な実践と、外国人労働者への教育強化
- (4) 健康及びメンタルヘルスに配慮した安全な職場環境の形成

3. 重点施策

(1) 墜転落災害・飛来落下災害と重機（クレーン・車輛系）災害の根絶

- ① 『開口部ゼロ』対策の実践と指差呼称、音声標識等の標準設置による注意喚起の強化（落下防止設備の先行設置と維持管理の強化）
- ② 玉掛け作業時の『3・3・3運動』の定着及び吊荷直下の立入禁止の徹底
- ③ 重機区画と誘導者配置の徹底、作業計画に基づく安全対策の確実な実施

(2) 高温下での作業に伴う災害防止

- ① 健康KYによる健康状態の把握と適正配置の実施（空調服着用・体調不良時の報告徹底）
- ② WBGTに応じた休憩と水分・塩分補給の摂取（熱中症対策の環境整備）
- ③ 声掛けにより注意力低下に伴う事故・災害の防止
- ④ 救急車手配に至らないよう、早期に作業をやめさせる。

(3) リスクアセスメントの確実な実践と、外国人労働者への教育強化

- ① 安全基本3行動『ひと声かけ、現地KY、ひとりKY』実践の定着
- ② 適切な指揮系統（安全衛生責任者・作業主任者・外国人指導員等）による安全管理の強化
- ③ 外国人労働者の適正配置、作業中の指導及び作業確認の強化
- ④ 化学物質リスクアセスメントの徹底

(4) 健康及びメンタルヘルスに配慮した安全な職場環境の形成

- ① 残業時間抑制（4週8休）による心身の健康確保
- ② 「健康経営宣言」に基づく快適な職場環境への環境整備（分煙・女性用トイレの設置等）
- ③ 高齢作業員の適正配置と作業内容の確認
- ④ 法令違反の防止（法令順守の指導・「万が一の場合」の報告の徹底）

《年間スローガン》

安全：危険は 慣れと 油断と 気のゆるみ 抜くな点検！ 省くな手順！

**環境：分ける知識と ひと手間で 資源増やして ごみ削減
ゼロエミ目指して 次世代へ**

10月) 倒壊・崩壊災害の防止、全国衛生週間

- ①足場・型枠支保工等の仮設構造物の組立にあたっては、特に水平方向の安全性を十分に考慮して、荷重及び外力を計算し、これに耐えられる強度を確保する。
- ②仮設構造物を組立てるときは、作業中の墜落、部材の落下、構造物の倒壊等を防止するため、作業手順を明確に定め手順に基づくリスクアセスメントを実施し、特定したリスク低減措置は確実に実施する。
- ③型枠支保工を組立てるときは、規格に基づき計画図を作成し、前項と同様に作業手順・リスクアセスメントを実施する。特定したリスク低減措置は確実に実施する。
また、支保工のパイプサポート足元の滑動防止は、サポートメイトを使用してはならない。根がらみパイプ、敷板に釘打ち等で確実に行う。
- ④以下の作業等については、作業主任者の直接指揮により作業させる。また、作業主任者に墜落制止用器具・保護帽等の使用状況を監視させる。
 - ・型枠支保工の組立作業。
 - ・建築物または塔で高さが5 m以上の鉄骨の組立または解体等の作業。
 - ・橋梁の上部構造で高さが5 m以上、または橋梁の支間が30 m以上の鋼製のものの架設、解体または変更の作業。
 - ・橋梁の上部構造で高さが5 m以上、または橋梁の支間が30 m以上のコンクリート造のものの架設、または変更の作業。
- ⑤仮設に使用する材料は、事前に点検して著しい損傷、変形、または腐食のあるものは使用しない。
- ⑥杭打ち機、クローラークレーン等の組立・解体・変更、または移動は、作業指揮者を選任し、その者の直接指揮により作業させる。
※ クローラー組立時の点検表を活用する。
- ⑦以下の作業等については、関係者以外の立入禁止措置を行い、強風・大雨・大雪等の悪天候時には、作業を中止する。(安全法令ダイジェストP241、243、244参照)
 - ・建築物または塔の骨組みの組立・解体・変更の作業。
 - ・型枠支保工の組立・解体・変更の作業。
 - ・足場の組立・解体・変更の作業。
 - ・金属製、またはコンクリート造の橋梁の上部構造の架設・解体・変更の作業。
- ⑧足場には、壁つなぎ・控え・筋かい・水平つなぎ、また型枠支保工には、筋かい・水平つなぎを設置して倒壊防止の措置を講じる。
 - ・足場の壁つなぎとして、単管パイプ+クランプを使用する場合は、引抜き荷重を考慮し、クランプの数を増やす。(すてクランプを取り付ける)
 - ・鉄骨H形鋼から壁つなぎをとる場合は、H鋼フランジ両側をクランプで固定する。
 - ・ブラケット付一側足場、単管抱き足場の場合、固定ベース金具より300～500mmの高さに壁つ

なぎを設ける。

⑨型枠支保工については、コンクリートの打設方法、及び型枠強度の各部の検討を行い、必要な措置を講じる。

⑩コンクリート擁壁等構造物に近接する箇所で掘削作業を行うときは、構造物の倒壊を防止する為の土止め支保工で補強する等、倒壊防止の措置を講じる。

⑪コンクリート造等の解体作業は、構造物の状況等の調査に基づき作業手順・切断方法・控えの設置方法等の具体的な危険防止措置を盛り込んだ作業計画を定めて実施する。

・SRC造の場合は、鉄骨継手位置を調査し、解体時のボルト飛散等にも注意する。

※ 作業所関連書類 施工計画事前検討会チェックリスト参照

⑫全国労働衛生週間期間中の行事を、計画し実施する。

・経営トップ、拠点長による安全衛生パトロールの実施

・安全衛生大会の開催

・健康診断受診状況確認

・安全衛生教育の実施等